

講義コード	2A002011
講義名	アスレティックトレーナーの役割
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2709
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

担当教員

中尾哲也、山口由美子、内田靖之、寺岡祐助、増田研一

目的

スポーツの現場では様々な職種の間が携わっているが、その中でも特にアスレティックトレーナーの役割について講義を行う。世界各国のアスレティックトレーナーの起源や歴史的背景、選手を取り巻くサポートスタッフとの連携、組織運営と管理、倫理規定などを学習することにより、アスレティックトレーナーが担うべき任務や役割・業務について理解を深めることを目的とする。

到達目標

アスレティックトレーナーの活動内容を理解し、見学実習や現場実習での自らの行動をイメージできるようになる。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーとは
2. スポーツ外傷・障害の予防
3. スポーツ現場における救急処置
4. アスレティックリハビリテーション
5. コンディショニング
6. 測定と評価
7. 健康管理と組織運営
8. 各スポーツ競技の特徴とAT①
9. 各スポーツ競技の特徴とAT②
10. 各スポーツ競技の特徴とAT③
11. 各スポーツ競技の特徴とAT④
12. 各スポーツ競技の特徴とAT⑤
13. 医科学スタッフとの連携・協力
14. コンディショニング 評価シートの作成
15. ATの倫理

成績の評価

定期試験の結果により評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

スポーツ現場でのトレーナーとしての考えについて教授するため、スポーツのルールまた基本的な解剖学、生理学の知識を再度、学修すること。加えて1年生から多くのスポーツに触れて、積極的にスポーツ現場を見学することで本授業への関心を深めて学修してほしい。

履修上の注意

本科目は、(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されている。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格が認められないので、注意すること。

テキスト

「日本体育協会公認テキスト①アスレティックトレーナーの役割」(日本体育協会)

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719号室 吉田隆紀 t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2A029011
講義名	トレーニング科学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 滝瀬 定文	指定なし

目的

トレーニングに対する各種エネルギー供給能力や運動器の代謝調節系、構成細胞の反応、適応メカニズムを系統的に論じ、実践的トレーニング法や評価法に関する知識と理解を深める。

到達目標

健康の維持増進及び体力、競技スポーツのパフォーマンス向上に関連したトレーニング法や身体のトレーナビリティの仕組みを学習し、実践的なトレーニング法の理解と測定データの解釈・評価ができる知識を養うことを到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. トレーニング科学について（体力トレーニングの基本原則）
2. 持久的運動とトレーニング
3. 間欠的運動とトレーニング
4. 循環系とトレーニング
5. 水分調節とトレーニング
6. トレーニングと疲労、休養
7. 発育発達とトレーニング
8. 女性とトレーニング
9. 加齢とトレーニング
10. トレーニングと骨密度、骨リモデリング
11. トレーニングに対する筋・骨格系のトレーナビリティ
12. 水中環境とトレーニング
13. ジュニア競技選手のトレーニング
14. スポーツ種目別トレーニング
15. まとめ

成績の評価

授業毎のレポート課題（15%）、小テスト（15%）、期末試験（70%）の成績を総合的に評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。具体的には、授業毎のレポート課題や配布資料をもとに講義内容の疑問点を復習し、次回の授業までに整理しておく。また、日常のスポーツ活動やトレーニング、運動部活動で各種トレーニング法を実践し、自分自身の身体や体力・コンディショニングを考える習慣を身につけることが望まれる。

履修上の注意
「トレーニング指導者 (JATI)」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー (AT)」を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。
テキスト
授業内容の必要に応じて資料を配布する。
参考資料
①「トレーニングによるからだの適応-スポーツ生理学トピックス-」 (杏林書院) ②「トレーニング生理学」 (杏林書院) ③「運動生理学のニューエビデンス」 (真興交易 (株) 医書出版部)

講義コード	2A037021
講義名	リハビリテーションプログラミング実習
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2619
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

増田 研一・中尾 哲也・吉田 隆紀・山口 由美子・寺岡祐助

目的

スポーツ現場に於ける検査／測定と評価実習、プログラミング作成実習を統合できること。

到達目標

アスリートの測定と評価、スポーツに関するリハビリテーションの知識を現場で応用可能になること。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーに必要な評価方法の習得
2. スポーツ動作の観察と分析
3. 競技特性に合ったコンディショニングプログラムの立案と実施
4. 傷害予防のためのアプローチ、そのための環境作りの実践
5. リハビリテーションプログラムの立案と実施
6. 企画立案とプレゼンテーション

成績の評価

実習への取り組み度、後期末に行うプレゼンテーションなどをもって総合的に評価する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目である。

テキスト

日本体育協会公認指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨（日本体育協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）
16:30-18:00

月曜日

火曜日 15:00-17:00 (吉田)

月～金曜日 12:00-13:00 (中尾)

月～木曜日 12:10-13:10、16:20-17:00 (山口) ※あらかじめアポを取って下さい。

水・金曜日 12:10-13:10 (寺岡)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp (内田)

診療・研究棟4階412研究室、nakao@kansai.ac.jp (中尾)

診療・研究棟3階305研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp (吉田)

診療・研究棟4階415研究室、yumiko@kansai.ac.jp (山口)

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp (寺岡)

講義コード	2A038011
講義名	リハビリテーション概論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2106
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員

鈴木 俊明

目的

リハビリテーション、障害の意味および内容について知る。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. リハビリテーションの概要 (中尾)
2. 障害の捉え方 (中尾)
3. 医学的リハビリテーションの概要 (中尾)
4. リハビリテーション評価の方法 (中尾)
5. リハビリテーション評価の方法 (中尾)
6. 四肢長、周囲径 (中尾)
7. 関節可動域テストの概要 (中尾)
8. 関節可動域テストの概要 (中尾)
9. 徒手筋力テスト (中尾)
10. 徒手筋力テスト (中尾)
11. 徒手筋力テスト (中尾)
12. 運動療法の意義と基本的な運動療法 (中尾)
13. 運動の協調性テスト、運動麻痺の評価 (鈴木)
14. 日常生活動作の評価とアプローチ (鈴木)
15. 高次脳機能評価とアプローチ、治療体操、物理療法、作業療法など (鈴木)

成績の評価

定期試験により評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。解剖学、生理学の知識も不可欠である。

テキスト

「リハビリテーション医学」 (医歯薬出版)

参考資料

「臨床医学各論」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719 E-mail : nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2A060011
講義名	運動器の解剖と機能
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

目的

アスレティックトレーナーという職業において体表解剖の理解は必須である。本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのため、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学修することをねらいとする。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、機能解剖学的な視点をもって関節運動を理解する。そしてスポーツ動作を論理的思考によって観察できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 運動器の解剖と機能概論①
2. 運動器の解剖と機能概論②
3. 運動器の解剖と機能概論③
4. 体幹の基礎解剖と運動 頸部
5. 体幹の基礎解剖と運動 胸部
6. 体幹の基礎解剖と運動 腰部
7. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節①
8. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節②
9. 上肢の基礎解剖と運動 肘関節
10. 上肢の基礎解剖と運動 手関節
11. 下肢の基礎解剖と運動 股関節
12. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節①
13. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節②
14. 下肢の機能解剖と運動 足関節
15. 復習

成績の評価

定期試験の結果により評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

解剖学で学修した用語や運動学で使用される用語を頻回に授業の中で使用する。できるだけ授業内容と一致する部分の解剖学の予習を勧める。

履修上の注意

本科目は、(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されている。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格が認められないので、注意すること。

テキスト

「日本体育協会公認テキスト②」(日本体育協会)
「運動器の解剖と機能」(文光堂)

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719研究室 吉田隆紀・t.yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2A066021
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

目的

西洋医学に東洋医学などの代替医療を併せて治療を行う統合医療の時代になりつつある。この流れは日本だけでなく、アメリカ、ドイツなど世界的に広がっている。外国の医師や鍼灸師、外国人の患者様とコミュニケーションする際にも英語力は必要不可欠である。本科目では鍼灸師にとって必要な東洋医学や解剖学の英単語や実際の臨床で用いることのできるフレーズ、FAQなどを勉強しながら英語を学ぶことを目的とする。

到達目標

鍼灸に関する基礎的な英単語と英会話の習得を目標とする。

授業計画表

授業計画

前期

1. 英会話のその前に
2. 実践フレーズ Lesson1、英単語、FAQ
3. 実践フレーズ Lesson2、英単語、FAQ
4. 実践フレーズ Lesson3、英単語、FAQ
5. 実践フレーズ Lesson4、英単語、FAQ
6. 実践フレーズ Lesson5、英単語、FAQ
7. 実践フレーズ Lesson6、英単語、FAQ
8. 実践フレーズ Lesson7、英単語、FAQ
9. 実践フレーズ Lesson8、英単語、FAQ
10. 実践フレーズ Lesson9、英単語、FAQ
11. 実践フレーズ Lesson10、英単語、FAQ
12. 実践フレーズ Lesson11、英単語、FAQ
13. 実践フレーズ Lesson12、英単語、FAQ
14. 実践フレーズ Lesson13、英単語、FAQ
15. まとめ

後期

1. 東洋医学の歴史
2. 陰陽五行説
3. 五臓・六腑
4. 気血津液
5. 経絡・経穴
6. 鍼灸治療

7. 治療で用いる鍼
8. 肩こりの鍼治療
9. 痛みに対する鍼治療
10. スポーツ鍼灸
11. 美容鍼灸
12. 漢方薬①
13. 漢方薬②
14. 薬膳
15. 海外における鍼灸事情

成績の評価

定期試験の試験結果により評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ・「鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック」（医道の日本社）
- ・「東洋医学で英語を学ぶ」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日 12:00～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 414研究室 k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	2A069011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	衛生・公衆衛生学
科目ナンバリング	A2-4001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー・2年
必修/選択	必修・前期1単位（講義）

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境のなかで扱う学問であり、その内容は、社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、健康増進をはかり、生活の質を高く保つ実践活動とそのための知識や技術を高めることである。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から健康をとらえ健康増進を図るための基本的な手法や主な疾病の予防を学ぶ。

到達目標

衛生・公衆衛生学の基本的な理論および疫学の方法論を理解する。また、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子や主な疾病の予防対策などを理解する。

授業計画表

授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学序論
2. 疫学Ⅰ 疫学とは 疾病の把握
3. 疫学Ⅱ 疫学の方法 コホート研究と症例対照研究など
4. 疾病予防と健康管理 疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理 健康増進
6. 生物的環境要因-微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の感染症
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患(心疾患 高血圧 脳血管)
11. 主な疾病の予防 代謝異常の疾患(糖尿病 脂質異常症)、痛風、
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー、不慮の事故
13. 環境保健 人間の環境、環境の評価、物理的環境、化学的環境
14. 環境保健 大気と水、廃棄物環境
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出物(10%)を合わせて評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に教科書をよく読んでおくこと。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は試験問題の範囲となるので、整理しておくこと。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」 (南江堂)

参考資料

「国民衛生の動向」 (厚生労働統計協会)

講義コード	2A070011
講義名	衛生・公衆衛生学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	衛生・公衆衛生学
科目ナンバリング	A2-4002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮本 邦彦	指定なし

目的

衛生・公衆衛生学Ⅱでは、人間集団の健康保持と増進、生命の延長を図るため、生活環境の衛生や環境の管理を理解すると共に、日本の保健行政を地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、精神保健、高齢者保健、精神保健、国際保健のステージに分けて学ぶ。また、医療福祉の制度と法規についても学ぶ。

到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、日本の社会で実施されている保健・福祉の手法を理解し、よりよい手法として発展するために必要なことはなにかを考えることができるようになること。

授業計画表

授業計画

1. 環境保健：衣食住の衛生
2. 環境保健：公害・環境の管理
3. 地域保健と保健行政・保健制度の仕組み
4. 母子保健
5. 学校保健
6. 中間試験
7. 産業保健①：職業と産業・労働災害
8. 産業保健②：職業病・健康診断・健康増進
9. 高齢者の保健・医療福祉①：老人の生活と健康
10. 高齢者の保健・医療福祉②：老人保健・福祉対策・介護保険
11. 精神保健①：精神保健の概要
12. 精神保健②：精神保健福祉活動
13. 国際保健医療
14. 健医療福祉の制度と法規
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出(10%)を合わせて評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に教科書をよく読んでおくこと。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配付資料をよく読んで理解する。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」 (南江堂)

参考資料

「国民衛生の動向」 (厚生労働統計協会)

講義コード	2A074011
講義名	加齢医学（老年医学）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2108
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 紀平 為子	指定なし

目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。特に、認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、骨粗鬆症、転倒などによる運動器障害への取り組みは、介護予防のためにも極めて重要である。さらに、健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

授業計画表

授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病
14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患
15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

成績の評価

定期試験にて評価する。

自己学習

加齢と高齢社会について多方面から自己学習し、情報収集した内容の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。授業1コマにつき、45分相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、健康運動実践指導者の対応科目である。

テキスト

特に指定しない。

参考資料

「老年医学テキスト(MEDICAL VIEW)」 (社団法人日本老年医学会)

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2A085011
講義名	環境と健康
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1210
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

目的

人間の健康だけでなくあらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右される。種々の環境を理解したうえで、様々な環境が人間の心身にどのような影響をあたえるのかを学修する。

到達目標

環境と健康の関連についての考え方や環境・健康学の基礎を学習したうえで、具体的内容として健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病・障害予防対策が理解できるようになり、将来、医療専門職としての基礎的な知識が身に付く。

授業計画表

授業計画

1. 環境と健康
環境と人間との相互関係、生態系の営み
2. 物理的環境（その1）
温熱条件、騒音、振動
3. 物理的環境（その2）
電磁波、異常気圧
4. 化学的環境（その1）「空気と健康」を中心に
5. 化学的環境（その2）
有害化学物質の吸収、体内蓄積、排泄、症状、
障害の予防、変異原と催奇形原
6. 生物的環境
病原微生物、病原体を保有または媒介する動物
7. 生物的環境：寄生虫、有毒動植物を中心に
8. 食物環境：食の安全性をめぐる
9. 衣服と住居環境
快適条件、シックハウス症候群
10. 水をめぐる問題：水と健康
11. 公害の人間生活への影響
身体的・精神的・心理的影響、防止対策、
環境保全の原則
12. 地球環境問題（その1）
地球環境と生活、残留性有機汚染物質、
内分泌攪乱化学物質、有害廃棄物の越境移動
13. 地球環境問題（その2）

オゾン層の破壊、地球温暖化

14. 地球環境問題（その3）

酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、
海洋汚染

15. 地球環境問題（その4）とまとめ

地球環境問題への取組み

成績の評価

国試形式による試験40問（80%）と授業への取組み度（20%）で評価する。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と1週間前に配布した資料で予習することが肝要。
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1週間以上前に講義内容の抄録と関連資料を配布する。

参考資料

適宜、紹介する。

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A114011
講義名	経穴学実習
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-2304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員

鍋田 理恵・池藤 仁美

目的

経穴学実習は鍼灸臨床を直接支える重要な科目であり、効果的な鍼灸施術を行うためには経穴を理解することが大切である。実習講義の内容を十分理解し、取穴の実際について、指先と体で覚えるように心がけること。

到達目標

経穴の部位を覚えて取穴ができるようになる。

授業計画表

授業計画

前期

1. 足少陰腎経、手厥陰心包経の経絡流注、所属経穴の部位
2. 手少陽三焦経、足少陽胆経の経絡流注、所属経穴の部位
3. 足厥陰肝経の経絡流注、所属経穴の部位
4. 体表標示法、骨度法および指量法
5. 前期中間試験①、上肢の経穴について①
6. 上肢の経穴について②
7. 上肢の経穴について③
8. 上肢の経穴について④
9. 前期中間試験②、下肢の経穴について①
10. 下肢の経穴について②
11. 下肢の経穴について③
12. 下肢の経穴について④
13. 前期中間試験③、背部と殿部の経穴について①
14. 背部と殿部の経穴について②
15. 胸腹部の経穴について

後期

16. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について①
17. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について②
18. 顔面部の経穴について
19. 頭部の経穴について①
20. 頭部の経穴について②
- 21.

経外奇穴①

22. 経外奇穴②

23. 後期中間試験

24. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈①

25. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈②

26. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈③

27. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴①

28. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴②

29. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴③

30. 後期のまとめ（実習）

成績の評価

中間試験、定期試験の結果で、前期50%、後期50%として評価する。

自己学習

経穴学は、短期的な学習では身につかない。繰り返し勉強して覚える必要がある。予習・復習をしっかりと行うこと。

成績不良者を対象に随時補習を行う。

テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）

「臨床経穴図」（医道の日本社）

「定本経穴図鑑」（主婦の友社）

「カラーアトラス 取穴法」（医歯薬出版）

オフィスアワー

谷：月曜日 12:30～13:00

鍋田：火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 12:30～13:00

池藤：金曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

谷：診療・研究棟4階416研究室・tani@kansai.ac.jp

鍋田：診療・研究棟4階416研究室・2c@kansai.ac.jp

池藤：診療・研究棟3階教員室・ikefuji@kansai.ac.jp

講義コード	2A120011
講義名	健康運動実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2712
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹尾 吉枝	指定なし

目的

有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。有酸素運動として一般的に行われている一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、ストレッチングの実際についても学習する。

到達目標

毎時のねらいに応じた、エアロビックダンス指導に必要な基本技術や動作を実践する。またそれらと平行した講義を通じてエアロビックダンス指導に必要な基礎理論を理解する。以上を確認する課題に適宜取り組み、最終的に勤務先等で役立つよう、プログラミングと指導のロールプレイングを体験する。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス、エアロビックダンスの背景・特性、初級プログラムの実践
2. クラス形式と授業順序の重要性、初級プログラムの実践
3. キューイングテクニック、初級プログラムの実践
4. メインエクササイズの部分指導演習
5. 正しい姿勢と筋強化エクササイズの必要性、初中級プログラムの実践
6. エアロビックダンスの運動処方、初中級プログラムの実践
7. 指導の循環、初中級プログラムの実践
8. ウォームアップの部分指導演習
9. プログラム作成上の留意点、音楽について、中級プログラムの実践
10. 自重で行う筋力強化エクササイズの指導法、中級プログラム
11. ストレッチングの指導法、中級プログラム
12. 授業前の指導とプレゼンテーションテクニック、グループテスト練習
13. 健康運動実践指導者実技模擬試験
14. 健康運動実践指導者実技模擬試験
15. 健康運動実践指導者理論対策

成績の評価

実技試験で設定した課題への到達度と授業への取り組む姿勢などで評価する。

出席点・授業への取り組み度：55%、実技試験：45%。

・小課題実技を2回実施し、1回につき10%とする。

・学期末課題実技は1回実施し、25%とする。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

授業4～5回毎に修了確認とする課題を実施する。課題の前週には練習を行い、実演の留意点の資料を配布する。その資料を参考に各自、計画的に学修することが望ましい。

履修上の注意

実技授業のため、授業の全部が見学の場合は不可とする。見学・遅刻、途中退出は出席点・授業への取り組み度より減点する。

ウェアは骨格筋肉の動きがわかる大きすぎることなく動きやすい、かつ吸水率・通気性の高いものを着用すること。その他の持ち物は、室内シューズ（衝撃吸収性が高く、適度な柔軟性があるものが望ましい）と大きめのタオル、筆記用具。肩にかかる長髪は束ね、アクセサリーは非装着とする。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修する必要がある。当該科目は、その養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」および「11、ストレッチングの理論と実際」の内容を含む。当該科目はその養成講座の専門科目「1フィットネス・エクササイズの理論と実際」の内容を含む。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」
((公財)健康・体力づくり事業財団)

参考資料

「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」
((公財)日本フィットネス協会)

オフィスアワー

金曜日 10:40～12:10

研究室・授業用E-mail

info@genki-kyokai.com 竹尾 宛て

講義コード	2A121011
講義名	健康運動実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A2-2713
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 朝海 伯子	指定なし

目的

1. 健康づくりを目的とした水中運動の理論を理解する。
2. 安全かつ効果的な水中運動を習得する。
3. 自ら見本を示せる実技能力と集団に対する運動指導を習得する。

到達目標

健康運動実践指導者の指導実技試験内容（水中運動）を行えるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 注意事項 授業説明 水なれ 水中運動実技
2. 水中運動の理論 水中運動実技
3. 水中運動の理論 水中運動実技
4. 水中運動の理論 水中運動実技
5. レジスタンス運動 水中運動実技
6. レジスタンス運動 水中運動実技
7. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
8. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
9. 水中運動実技 指導実技
10. 水中運動実技 指導実技
11. 水中運動実技 指導実技
12. 水中運動実技 指導実技
13. 水中運動実技 指導実技
14. 試験日
15. 試験日

成績の評価

試験日に水中運動（3分間）の指導実技テストを行う。技術の修得及び、説明能力・表現・指導力・適応能力を総合評価する。

試験100%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

水中運動の目的・方法を理解し、説明する練習をする。

履修上の注意

水泳帽子着用・毎回出欠確認・準備運動後の遅刻は見学参加・無断退出は欠席・自動車通学禁

止・見学参加はレポート提出・移動時注意する・準備、後片付けは班ごとで行う・水着は体にフィットしたものを着用・施設への移動時、各自で安全確認すること。

なお、「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」

((財) 健康・体力づくり事業財団)

講義コード	2A169021
講義名	情報科学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率良く必要かつ有用な情報を入手しそれらを整理し分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティーも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

授業計画表

授業計画

01. 情報社会のセキュリティー、コンピュータの基本操作
02. ワードプロソフトの利用-ビジネス文章の作成
03. ワードプロソフトの利用-表でまとめる
04. ワードプロソフトの利用-図で魅せる
05. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
06. 表計算ソフトの利用-書式で編集
07. 表計算ソフトの利用-関数を使う
08. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
09. 表計算ソフトの利用-データベースの活用
10. 表計算ソフトの利用-効率化を図る
11. ソフトの連携
12. プレゼンテーションソフトの利用-スライドの作成
13. プレゼンテーションソフトの利用-魅力的に仕上げる
14. 総合演習
15. まとめ

成績の評価

試験約60%・授業中提出物約30%・授業への取り組み度約10%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」 (noa出版)

参考資料

「情報利活用コンピュータリテラシー」 (日経BP社)

オフィスアワー

水曜日 (17:00～18:00)

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認すること。

研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A171011
講義名	食品栄養学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2109
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

目的

私たちは食事をとることによって、生命を維持し、発育・成長し、健康を保持増進している。必要な物質を体内に取り込み、利用することを栄養といい、その仕組みについて学ぶことが栄養学である。また、スポーツに関する栄養ケアマネジメントを行えるよう、対象者について幅広く理解を深めていくことを目的とする。

到達目標

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむ。

授業計画表

授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 5大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質）
3. 日本人の食事摂取基準
4. 消化、吸収および排泄
5. エネルギー代謝と運動
6. 食品と体の成分、身体組成
7. 運動と栄養ケア（グリコーゲンの補給と回復）
8. 栄養欠陥に基づく疾病と対策（スポーツ貧血、骨障害）
9. 病態と栄養（糖尿病）
10. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
11. 病態と栄養（腎臓病）
12. 病態と栄養（貧血、脱水）
13. 病態と栄養（食物アレルギー）
14. 特定保健食品、栄養補助食品（サプリメントとエルゴジェニック）やその表示
15. ライフステージと栄養

成績の評価

試験（60%） レポート、ノート提出（30%） 小テスト（10%）

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

履修上の注意

授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者、日本体育協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー

金曜日 16:00-16:30

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A230011
講義名	生命倫理
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 宗平	指定なし

担当教員

矢本 希夫、池田 裕明

目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

授業計画

オムニバス形式

(池田)

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
- 第二講 医療情報と個人情報保護
- 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
- 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
- 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題

(池田)

- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
- 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
- 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
- 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
- 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療

(吉田)

- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
- 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
- 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術

第十四講 出生をめぐる倫理問題（その） 新生児医療
第十五講 出生をめぐる倫理問題（その5）—その他
（矢本）

成績の評価

定期試験、3人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

オフィスアワー

月曜日昼休み12：10～13：10（吉田）

研究室・授業用E-mail

管理棟2階学長室（吉田） ・ yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	2A260011
講義名	中国語
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1306.1
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 橋本 知佳	指定なし

目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編である。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話で練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強していく。

到達目標

中国語を正しく発音できるよう、簡単な会話や専門用語を覚え、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課 発音 (1) 単母音と声調 音節の特殊ルール①
3. 授業の復習、会話練習、
4. 第2課 発音 (2) 複母音一重母音、三重母音、声調付け位置 音節の特殊ルール②
5. 授業の復習、会話練習
6. 第3課 発音 (3) 複母音一鼻母音
7. 母音のまとめ、リスニングの練習・確認
8. 第4課 発音 (4) 子音① 有気音と無気音 音節の特殊ルール③
9. 授業の復習、会話練習
10. 第5課 (5) 発音 (5) 子音② 音節の特殊ルール④
11. 授業の復習、会話練習、「自己紹介」作文の準備
12. ピンインの実用練習&発音確認
13. 第6課 動詞の「是shi」の基本的な使い方

14. 本文の発音練習、練習問題を解く、個別発音チェック

15. 期末まとめ復習

成績の評価

期末試験及び課題作り・発表の成績などにより総合的に評価する。

自己学習

事前にテキストの内容を確認し、授業を受ける条件として、教科書を持参すること。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」CDなし

参考資料

必要時は授業中に指示する。

講義コード	2A264011
講義名	東洋医学と西洋医学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1211
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸田 静男	指定なし

目的

明治新政府の漢方廃絶により東洋医学(漢方医学)は非公認となった。それ以降、日本の医学、医療の主流は西洋医学となった。しかし、近年東洋医学が見直され、現在では医学、医療の一部となった。その傾向は、ますます拡大されてきている。そして、その波は世界各国に広がっている。このようなことから、東洋医学の基礎概念を解説して行きながら、西洋医学の分野で東洋医学がどのように反映されているのかを講義する。

到達目標

東洋医学と西洋医学の全体像を俯瞰しながら、医学や医療について論じ議論し合えることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 現代医学における東洋医学の位置づけ
2. 東洋医学と西洋医学の違い
3. 東洋医学の基本構造
4. 漢方方剤の基本概念
5. 東洋医学における証
6. 東洋医学における病態把握 陰陽虚実表裏寒熱
7. 東洋医学的診断 望、聞、問、切
8. 東洋医学的病因 気、血、水
9. 東洋医学的治療
10. 鍼灸の基本概念
11. 鍼灸の病態把握
12. 鍼灸治療
13. 東洋医学と相補・代替医学
14. 東洋医学と世界の伝統医学
15. 今後の医学、医療における東洋医学と西洋医学

成績の評価

課題レポートで成績評価を行う。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

なし。教材としてプリントを配布する。

参考資料

特になし。講義中に参考図書を紹介する。本学図書館の書籍を大いに参考、活用してほしい。

オフィスアワー

金曜日 12:30-13:10

研究室・授業用E-mail

管理棟2F 208研究室. toda@kansai.ac.jp

講義コード	2A267011
講義名	東洋医学各論Ⅰ
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

目的

中国伝統医学を軸足とする東洋医学には「方証一致」の法則がある。つまり、中医診断学(四診)を通じて病状を的確に把握し、「病証(弁証)」を明らかにすることにある。本講義では、一年次に習得した中国伝統医学の基礎知識を用いて、臨床現場で必要となる「弁証」や「診断」とその実践方法の基本について学ぶ。

到達目標

中国伝統医学(中医学)の気血や蔵府(臓腑)、経絡の病証理論を通して、中医診断学(四診)による具体的な知識を養うことで、八綱弁証や臓腑弁証の応用能力を育て実践に役立てることを習熟の到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 中国古代の人間観
2. 気の思想と人体との関係
3. 陰陽五行論と人体の関係
4. 気、血、津液、精の働き
5. 気血と経絡の関係
6. 経絡の働きと経穴
7. 中医蔵府学
【肝の生理と病理】
8. 中医蔵府学
【心の生理と病理】
9. 中医蔵府学
【脾の生理と病理】
10. 中医蔵府学
【肺の生理と病理】
11. 中医蔵府学
【腎の生理と病理】
12. 臓腑間相関理論
(臓腑間病証と五行循環)
13. 臓腑経絡相関理論
(経絡循環と五行循環)
14. 中医診断学
【四診における基礎知識】
15. 中医診断学

【弁証学と診断学】

16. 中医診断学【望診法】
17. 中医診断学【聞診法】
18. 中医診断学【問診法】
19. 中医診断学【切診法】
20. 中医診断学
【舌診と病証の関係】
21. 中医診断学
【脈診と病証の関係】
22. 中医診断学
【腹診と病証の関係】
23. 『難経』六十九の臨床運用
24. 『難経』六十九の臨床運用による配穴
25. 八綱弁証
【寒熱、虚実より八綱を考察する】
26. 八綱弁証
【気血、寒熱、陰陽より八綱を考察する】
27. 臓腑弁証
28. 経絡弁証
29. ピラミッド弁証法
30. ケーススタディ（具体的な症例を検討する）

成績の評価

定期試験90%・レポート10%とする。

自己学習

1. 「臓腑学」などで基本理論を習得し、中国伝統医学に対する予備知識を高めて置くと聴講の助けとなる。
2. 書籍に親しみ東洋医学用語を理解して専門性を高めること。
3. 複数の参考文献を用いてさまざまな所見や症例に対して興味をもち、伝統医学的思考を確立すること。
4. 授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

「新版東洋医学概論」（医道の日本社）

参考資料

- 「入門・目でみる臨床中医診断学」（医歯薬出版）
- 「わかりやすい臨床中医臓腑学・第3版」（医歯薬出版）
- 「わかりやすい臨床中医診断学・第2版」（医歯薬出版）
- 「漢方用語大辞典」（燎原書店）
- 「経筋・経別・奇経診療臨床運用と理解」（厚生社）
- 「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング・第2版」（医歯薬出版）

オフィスアワー

「木曜日 12:30～14:00」

面談時には事前にメールで連絡すること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室
E-mail:cai@kansai.ac.jp

講義コード	2A297011
講義名	病因・病態学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

目的

疾病の正しい理解、診断と治療のために、人体の疾病の成因 (Etiology) 、さらにどのような過程で人体に病気を発症させるかという発生機序 (Pathogenesis) を理解し、これらに基づき人体機能の異常と形態の異常の関連について正しい知識を身につけることを目的とする。

到達目標

本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、特に病理学概論について講義を行う。

授業計画表

授業計画

1. 疾患の内因 1
2. 疾患の内因 2
3. 疾患の外因 1
4. 疾患の外因 2
5. 細胞の損傷、虚血、低酸素、萎縮と変性 (1)
6. 細胞の変性 (2)
7. 老化と加齢
8. 黄疸、肥大、過形成、再生
9. 創傷治癒、化生、壊死、アポトーシス
10. うっ血、充血、浮腫
11. 脱水、ショック、出血
12. 血栓、塞栓、DIC1
13. 血栓、塞栓、DIC2
14. 炎症基礎 1
15. 模擬試験

成績の評価

定期試験 100%

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

授業レジュメを配る。
「病理学概論」医歯薬出版)

参考資料

「ロビンス基礎病理学」(廣川書店)
「標準病理学」(医学書院)
「わかりやすい病理学」(廣川書店)
「イラスト病理学」(文光堂)
「ゼットイわかる病理写真の読み方」(医学教育出版社)
「病理組織の見方と鑑別診断」(医歯薬出版)
「シンプル病理学」 南江堂

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A298011
講義名	病因・病態学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 畑村 育次	指定なし

目的

人体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのような過程を経て病的変化が形成されていくかを知ることが、疾病の本質を理解する上で重要なことである。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、疾患の病因・病態を理解する

到達目標

この講義では病因・病態Ⅰの続きおよび各疾患の病因・病態について基本的な講義を行い、前期で学んだことをさらに発展させ疾患の基礎的理解を深める。各種疾病の病因や病態について、理解ができるようにするとともに、自ら考え得る能力を養うことをも目標とする。本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 炎症各論 1
2. 免疫の基礎 1
3. 免疫の基礎 2
4. 免疫 1
5. 免疫 2
6. インフルエンザ
7. 免疫異常・アレルギー
8. 自己免疫疾患 1
9. 自己免疫疾患 2・臓器移植
10. 腫瘍 1
11. 腫瘍 2
12. 腫瘍 3
13. 先天性疾患と遺伝性疾患 1
14. 先天性疾患と遺伝性疾患 2
15. 模擬試験

成績の評価

定期試験100%

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる。また授業に臨むにあたっては授業レジュメをあらかじめ

じめ読み、授業後その日のうちに復習し、一週間後に確認テストの復習をすること。自己学習時間については授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

毎回授業レジュメを配る。

「病理学概論」（医歯薬出版）

参考資料

「ロビンズ基礎病理学」（廣川書店）

「標準病理学」（医学書院）

「わかりやすい病理学」（廣川書店）

「イラスト病理学」（文光堂）

「ゼットイわかる病理写真の読み方」医学教育出版社）

「病理組織の見方と鑑別診断」（医歯薬出版）

「シンプル病理学」 南江堂

オフィスアワー

木曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

講義コード	2A379011
講義名	鍼灸基礎実習Ⅱ（応用実技）
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	4
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

担当教員

中吉隆之、川本正純、坂口俊二

目的

1年次の基礎実習の内容を踏まえ、鍼灸施術を‘どこに’‘どのように’行うかに重点を置く。

到達目標

‘どこに’とは、‘経穴’である。授業計画に示す身体各部の経穴には、鍼灸臨床において使用頻度の高い経穴を選択し、その取穴の習得を、また‘どのように’では、安全で基本に忠実な技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

前期

1. 鍼灸基本技術/刺鍼手技、肘関節部の経穴への鍼灸①
2. 肘関節部の経穴への鍼灸②
3. 手関節部・手部の経穴への鍼灸①
4. 手関節部・手部の経穴への鍼灸②
5. 前腕部の経穴への鍼灸①
6. 前腕部の経穴への鍼灸②
7. 膝関節部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼灸の有害事象と感染防止’
8. 膝関節部の経穴への鍼灸②
9. 足関節部・足部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘個々の有害事象の防止法’
10. 足関節部・足部の経穴への鍼灸②
11. 下腿部の経穴への鍼灸①
12. 下腿部の経穴への鍼灸②・実技試験1（片手鍼管操作・紙上施灸）
13. 実技試験2
14. 実技試験3
15. 実技試験4

後期

16. 身体各部への刺鍼・施灸の前期復習
17. 背腰部の経穴への鍼灸①
18. 背腰部の経穴への鍼灸②
19. 腹部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼のひびき’
20. 腹部の経穴への鍼灸②
21. 前胸部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘刺鍼手技’
- 22.

- 前胸部の経穴への鍼灸②
 23.肩甲部の経穴への鍼灸①
 24.肩甲部の経穴への鍼灸②
 25.頸部の経穴への鍼灸
 26.頭顔面部の経穴への鍼灸①・[講義：坂口]鍼灸治療における治療者-患者関係' [キャリア支援]
 27.頭顔面部の経穴への鍼灸②
 28.身体各部への刺鍼・施灸の総復習
 29.実技試験1 (片手鍼管操作・紙上施灸)
 30.実技試験2

成績の評価

基礎技術の到達度 (10%)、実技試験<前期・後期> (50%) および学科試験<前期・後期・国家試験対策模試※ (40%)、により総合的に評価する。

※国家試験対策模試-12月15日 (土) 10時~11時30分、解剖学、生理学、東洋医学概論、はり理論、きゅう理論

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「鍼灸医療安全性ガイドライン」 (医歯薬出版)

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00 (事前にメールをすること)

中吉：月曜日：16:20～17:00 水曜日、木曜日の12：30～13：00

(記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応します。事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。)

研究室・授業用E-mail

鍋田：診療・研究棟4階 416研究室 e-mail;2c@kansai.ac.jp

中吉：診療・研究棟4階 414研究室 nakayosi@kansai.ac.jp

講義コード	2A396011
講義名	鍼灸理学併用療法実習
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-2601
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

担当教員

松浦 英世

目的

手技療法の基本の他、運動器疼痛に特化したトリガーポイントマッサージ(黒岩)、スポーツ領域に特化したスポーツ・マッサージ及び鍼灸との併用法(松浦)等の技術を習得する。

到達目標

開業、スポーツ分野に就職後、一通りマッサージができる。

授業計画表

授業計画

<黒岩担当分>

1. トリガーポイントマッサージの基礎
2. 機械痛の視点から腰痛、坐骨神経痛の再検討
3. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造特定のためのマーキングポイント
4. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習1
5. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習2
6. 腰痛のTPマッサージ：腰方形筋
7. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋1
8. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋2
9. 腰痛のTPマッサージ：多裂筋、大殿筋
10. 腰痛のTPマッサージ：中殿筋、小殿筋
11. 腰痛のTPマッサージ：大腰筋
12. 腰痛のTPマッサージ：総合
13. 坐骨神経痛1(殿部;小・中殿筋、梨状筋)
14. 坐骨神経痛2(股関節前方;小・中殿筋)
15. 実技試験

<松浦担当分>

1. あん摩、マッサージ、指圧その他手技療法の基本
2. 肩背、腰仙殿部の全身編スポーツマッサージ
3. 下肢の全身編スポーツマッサージ
4. 伸展法下肢編
5. 上肢の全身編スポーツマッサージ
- 6.

伸展法上肢・頸部編

7. 胸腹部（五臓六腑）のマッサージ
8. 手部、手関節前腕の関節編スホ°-ツマッサ-ジ
9. 肘部、肩関節の関節編スホ°-ツマッサ-ジ
10. 牽引性運動法（上肢編）
11. 足部、足関節の関節編スホ°-ツマッサ-ジ
12. 下腿部のスホ°-ツマッサ-ジ
13. 膝関節、大腿部のスホ°-ツマッサ-ジ
14. 牽引性運動法（下肢編）
15. 太極療法

成績の評価

(黒岩) 実技試験100%
(松浦) レポ-ト100%

自己学習

授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと。予習では、実習で取り上げる筋、靭帯とそれらが付着する骨の解剖学、運動学を実習日までに調べておくこと。

テキスト

「スホ°-ツマッサ-ジ」(関西運動器障害研究会)
配布資料

参考資料

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)
「プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系 第3版」(医学書院)

オフィスアワー

水曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 306研究室・kuroiwa@kansai.ac.jp (黒岩)

講義コード	2A398011
講義名	鍼灸理論Ⅱ（応用）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A2-4103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

目的

1年次の鍼灸理論Ⅰで学んだ「鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか」をベースとして、鍼灸刺激が生体にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果がどのようなメカニズムで出現するのかについて、生理学や免疫学などにに基づき考えることが中心となる。

到達目標

鍼灸理論Ⅰの内容を踏まえ、鍼灸の治効理論を、科学的な側面から理解し、修得することを最低限の到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 2. 鍼灸治効の基礎 (5) 鍼灸刺激と反射
2. 2. (6) 鍼鎮痛①
3. 2. (6) 鍼鎮痛②
4. 2. (6) 鍼鎮痛③
5. 2. (6) 鍼鎮痛④
6. 2. (7) 刺激と反応
7. 3. 鍼灸療法の一般治効理論
 - (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①
8. 3. (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②
9. 3. (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響③
10. 3. 鍼灸療法の一般治効理論
 - (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①
 11. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②
 12. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響③
 13. 3. (3) 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用
14. 4. 関連学説①
15. 4. 関連学説②

成績の評価

評価は定期試験の成績によってのみ評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）

参考資料

「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂）

「鍼灸臨床最新科学」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日（12:00～13:00）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階414研究室, k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	2A406011
講義名	バイオメカニクス
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3005
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石川 昌紀	指定なし

担当教員

小田啓之

目的

各種スポーツにおける競技力は、スポーツ動作の巧拙や動作パワーの大小に大きく依存する。本講義の目的は、スポーツバイオメカニクスの観点から「動き」や「力」に関する研究に触れ、スポーツ動作の成り立ちについて理解することを目指す。身運動の基本動作および競技スポーツの特異的な動作についてバイオメカニクスの観点から理解することを目指す。

到達目標

本講義での目標は、身運動の基本動作である歩・走・跳・投・泳・滑動作の仕組みについて理解できる。

授業計画表

授業計画

1. バイオメカニクスイントロダクション
2. 身体構造・骨格筋の特性
3. 骨筋の特性・回転運動
4. 反動利用と身体運動
5. 歩く・走る 1
6. 歩く・走る 2
7. 跳ぶ 1
8. 跳ぶ 2
9. 中間試験
10. 投げる
11. 打つ
12. 蹴る
13. 泳ぐ
14. 滑る
15. スポーツの競技力に関わるバイオメカニクス知見

成績の評価

講義での課題(10回×5点)と試験(50点)の100点満点で評価する。

自己学習

授業1コマにつきコマ(45分)相当の予習と復習を行なうこと。特に、授業計画のトピックについて、ネットを利用して情報を収集して予習してくること。

履修上の注意

講義内で指示する。

なお、JATI認定トレーニング指導者、日本体育協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

テキスト

講義内で配布する資料

参考資料

「スポーツバイオメカニクス入門」 (杏林書院)

「スポーツバイオメカニクス」 (朝倉書店)

オフィスアワー

月曜日1コマ目

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	2A407011
講義名	スポーツ医学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2115
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 増田 研一	指定なし

担当教員

田中 雅博

目的

スポーツ活動に起因する各種外傷・障害の基礎的知識を習得すること。

到達目標

上記に同じ。

授業計画表

授業計画

1. スポーツ外傷・障害総論
2. 体幹のスポーツ外傷・障害①頸部
3. 体幹のスポーツ外傷・障害②腰部・背部・骨盤
4. 上肢のスポーツ外傷・障害①肩関節
5. 上肢のスポーツ外傷・障害②肘関節
6. 上肢のスポーツ外傷・障害③手関節・手
7. 下肢のスポーツ外傷・障害①大腿
8. 下肢のスポーツ外傷・障害②膝関節
9. 下肢のスポーツ外傷・障害③下腿
10. 下肢のスポーツ外傷・障害④足・足関節
11. 重篤な外傷
12. その他の外傷
13. 年齢・性別による特徴
14. メディカルチェック
15. 予備

成績の評価

後期試験期間中に施行するマークシート方式の試験。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。現場実習の際の基礎知識となるので、特に復習を確実に行うこと。

履修上の注意

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されているので、遅刻・欠席は認められない。

テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③」（日本体育協会）。
テキストは毎回使用する。

講義コード	2A408011
講義名	スポーツ心理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2114
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 堀川 雅美	指定なし

目的

スポーツと心の関係を科学的・合理的アプローチから理解すること。

到達目標

スポーツにおける心に関わる問題がパフォーマンスに及ぼす影響を理解できること。
 スポーツへの動機づけやコーチングの原理・原則を理解できること。
 これらの知識をアスレティックトレーナーとして役立てられること。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション・スポーツ心理学の内容
2. スポーツマンの性格と態度（パーソナリティ）
3. 学習
4. スポーツと認知（感覚・知覚・神経系） 1
5. スポーツと認知（感覚・知覚・神経系） 2
6. スポーツ技能の学習
7. スポーツ技能の指導
8. 動機づけ・目標設定
9. ストレス
10. ストレスマネジメント・スポーツの心理的効果
11. スポーツと発達
12. スポーツ集団の構造と機能
13. スポーツコーチの仕事・スポーツカウンセリング
14. メンタルトレーニング
15. 前期のまとめ

成績の評価

定期試験70%・課題20%・授業への積極的な取り組み10%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）の予習と復習を行なうこと。具体的には、毎回テキストの該当トピックを通読・予習をすること。毎回授業内容のまとめ・整理などの復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティック日本体育協会公認アスレティックトレーナーの専門科目に認定されている。遅刻・欠席は原則的に受験資格が認められないので、十分注意すること。

テキスト

「スポーツ心理学・やさしいスチューデントトレーナーシリーズ」 (嵯峨野書院)

参考資料

「健康・スポーツの心理学・フィットネスシリーズ2」 (建帛社)

「スポーツメンタルトレーニング教本」 (大修館書店)

「スポーツ心理学ハンドブック」 (実務教育出版)

オフィスアワー

木曜日 授業終了後

研究室・授業用E-mail

horikawa@kwansei.ac.jp

講義コード	2A409011
講義名	スポーツリハビリテーションI
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3006
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

目的

さまざまなスポーツ傷害に対する病態とリスクを把握し、身体機能障害に対する検査・測定を行えるようになる。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックリハビリテーションに必要な評価
2. アスレティックリハビリテーションに必要な評価
3. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
4. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
5. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
6. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定法
7. スポーツ動作の観察と分析
8. スポーツ動作の観察と分析
9. スポーツ動作の観察と分析
10. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
11. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
12. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
13. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入
14. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入
15. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入

成績の評価

教科書内の発表担当部分の発表の仕方や内容、仲間で助け合って作成した問題に対する点数で評価する。

採点配分は、発表50%と自作試験50%とする。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。

履修上の注意

日本体育協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価」（日本体育協会）

参考資料

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック アスレティックリハビリテーション」（文光堂）、
「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック 検査・測定と評価」（文光堂）、
「新・徒手筋力検査法」（協同医書出版社）

オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館7階 D719 E-mail : nakao@kansai.ac.jp

講義コード	2A411011
講義名	予防とコンディショニングⅠ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2112
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

寺岡祐助

目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせる選手へ処方していくか、基礎を高めることを目的とする。

到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように考えるか、思考力の獲得を目指す。また予防の手段の一つであるテーピング技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングのとらえ方
2. トレーニングによる身体適応
3. コンディショニングの要素
4. テーピング実技：足部
5. テーピング実技：足関節①
6. テーピング実技：足関節②
7. テーピング実技：下腿部
8. テーピング実技：膝関節
9. テーピング実技：大腿部、股関節
10. テーピング実技：腰部、胸部、肩関節
11. テーピング実技：肘関節
12. テーピング実技：手関節、指
13. テーピング実技：キネシオテーピング
14. テーピング実技検定①
15. テーピング実技検定②

成績の評価

定期試験45%、テーピング検定45%、講義・実習に取り組む姿勢10%から総合的に評価する。

自己学習

テキストにテーピングの巻き方は載っているが、人の形状は千差万別である。解剖学的な構造を理解してこそテーピングの技術が生きてくるので、体表解剖学の理解が重要である。

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されている。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は、原則的に受験資格を得られない。やむを得ない欠席・遅刻について事前にわかるものは相談すること。尚、欠席した場合レポートを代替として提出させることがある。

テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング」（日本体育協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

水・金曜日 12:10-13:10（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	2A412011
講義名	臨床医学Ⅰ（医学総論）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

目的

病歴聴取（問診）、身体所見の診察、検査診断→患者の全体像を把握し医師と適切に連携できる能力を養うこと。

到達目標

特殊な器具を使わずに診断を行う技術、医師への受診が必要な状態かの判断、緊急で受診する必要があるのかの判断、医師との連携、医師にも受診している患者の話す内容の理解。

授業計画表

授業計画

1. 歩行姿勢、体格、頭蓋
2. 顔貌、呼吸
3. 脈拍、血圧、体温、意識
4. 救急、皮膚
5. 浮腫、リンパ、弱者、知能、感情
6. 運動失調、不随意運動
7. 筋緊張、髄膜刺激症状、上肢近位
8. 上肢遠位、背部、腰下肢
9. 眼、耳
10. 鼻、口
11. 顔面、脊髄、感覚障害
12. 頸部内臓、胸部内臓
13. 腹部内臓、検査総論、検尿、検便、血計検査
14. 電解質検査、肝機能検査、腎機能検査、感染症炎症検査、生化学その他、髄液検査
15. 生理学的検査、画像診断、心理検査、治療総論、薬物

成績の評価

[1] 4択問題の問題集を講義中に配付する。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出す。(80点満点。追再試験あり。)

[2] 講義中に小テストを行うことがある。(20点満点。追再試験なし。)

以上を合計し、60点以上になれば合格です。追再試験は [1] のみ行います。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

月曜日9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟303研究室

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	2A413011
講義名	臨床医学Ⅱ（外科系）
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

目的

鍼灸施術の適応となる整形外科疾患の知識を得る。

到達目標

整形外科医と同等のレベルの知識の修得

授業計画表

授業計画

1. 整形外科学とは
2. 頸椎疾患
3. 胸椎疾患
4. 腰椎疾患
5. 肩疾患
6. 上肢疾患
7. 手の疾患
8. 股関節疾患
9. 膝疾患
10. 下肢疾患
- 11・12. 足疾患
- 13・14. まとめ
15. テスト

成績の評価

定期試験 80%
レポート 10%
小テスト 10%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。特に学修範囲が広いので予習が肝要である。

テキスト

「臨床医学各論」（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟409研究室
kanai@kansai.ac.jp

講義コード	2A414011
講義名	疼痛動作の運動学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-3002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北川 洋志	指定なし

目的

運動器慢性疼痛の多くは頻回使用(overuse)が原因で発生する。発生した発痛構造に、動作によって生じた筋収縮などの刺激が加わると発痛する。動作から発痛構造を推測していくためには、各関節の構造や筋や靭帯などの軟部組織の知識が必要となる。そのため本講義では、動作時における関節の動きや、その時に働く筋や靭帯などを理解し、動作から発痛構造を推測していくための知識を身につけることを目的とする。

到達目標

「痛みの発生源を刺激すると発痛/疼痛増悪する」という原則に基づいて、訴えられた発痛/疼痛増悪動作を解剖学的・運動学的な視点をもって理解し、発痛構造を推測できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 疼痛動作の運動学概論
2. 股関節の運動学①
3. 股関節の運動学②
4. 膝関節の運動学
5. 足関節の運動学
6. 肩関節の運動学①
7. 肩関節の運動学②
8. 肘関節の運動学
9. 手関節の運動学
10. 体幹の運動学
11. 身体動作の機能解剖①
12. 身体動作の機能解剖②
13. 身体動作の機能解剖③
14. 運動連鎖と評価①
15. 運動連鎖と評価②

成績の評価

期末試験70%・小テスト30%にて評価

自己学習

授業で取り扱う各関節の構造や動き、筋の起始・停止・作用について、授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「解剖学 (第2版)」 (医歯薬出版)

参考資料

適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:10~12:40

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階鍼灸教員室
kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	2A415011
講義名	臨床心理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A2-2111
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊東 弘美	指定なし

目的

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

到達目標

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、対人関係を多角的な視点から捉えられるようになることを目指す。理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置き、コミュニケーション及び心理検査についてはグループワークや実習を通して理解を深める。

授業計画表

授業計画

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

成績の評価

試験は行わず期末レポートにより評価する。

自己学習

授業1コマあたり2コマ相当(180分)の自己学習が必要。特に復習を重視すること。

テキスト

授業時間内にプリントを配布する。

参考資料

「ナースのための心理学」(金子書房)

「心とかかわる臨床心理」 (ナカニシヤ出版)

オフィスアワー

月曜日 16:20~16:50